

おか ま ゆ み
岡 麻友実 (小野田中学校 3 年生)



オーストラリアで一番困ったことは、会話です。初めは会話が続きなかつたこともありましたが、3、4日経つと耳も慣れてきて、簡単な単語が聞き取れるようになってきました。しかし、聞き取れるだけで言葉にしようとしてもなかなかできなく、すごく悔しい思いをしました。もう少し英語の勉強をしてくればよかつたと後悔しました。これからもっと英語の勉強を頑張り、この経験を大切に、私のこれからの人生に最大限生かしていこうと思います。

くぼた ちはる
久保田 千春 (埴生中学校 3 年生)



ホストファミリーは本当にいい家族で、ホームシックにはなりません。しかし、ホストファミリーが仲良く笑顔で話しているのを見て、家族に会いたくなりました。いつもそばにいて当たり前の家族と離れてみて、私は家族の大切さを知りました。渡した手紙に書いた「See you again!」が実現できるよう、これからも学ぶことを忘れずに頑張りたいです。このような機会を与えてくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

しのだ なぎさ
篠田 凧沙 (厚狭中学校 3 年生)



オーストラリアに行き、文化の違いを感じました。靴のまま家の中に入るになかなか慣れず、パディのクリスティーナに何度も笑われました。他にも食事の時に「いただきます」「ごちそうさま」と言わないことも驚きました。でも、ホストファミリーの家では、食事を作ってくれた人に「Thank you」と言っていたのはいいなと思いました。これからはこの経験を活かして、どんなことにも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

たさか みもり
田坂 実保 (竜王中学校 3 年生)



ホームステイ先での文化や習慣の違いには、驚きました。例えば、私の家では食事の準備は母が全て行いますが、ステイ先の家では夕食は当番制でした。Dad も夕方 5 時ごろには帰宅をし、一緒に食材を買いに行き、エビの料理を作ってくれました。私の父がそんなに早く仕事から帰ることはないの、不思議な感じがしました。当たり前と思っていたことが国によって違うことを知り、改めて世界は広いなと思いました。この経験を活かし、もっと視野を広げ、柔軟な考えができる人になりたいです。

にのみや ま ゆ
二宮 真夕 (高千帆中学校 3 年生)



最後の日の夜、ホストファミリーと夜の 1 時半まで話をしました。オーストラリアでは、高校受験がないこと、授業中に自由に立ち歩いたり、話したりすることが普通であること…たくさんの違いについて話をしました。また、常に感じていた違いは気候です。日本のようにジメジメしていなかったので、不快感は感じませんでした。オーストラリアと日本の文化や環境の違いを体で感じる事ができたこの経験を、これからの生活に生かしていこうと思います。

ふなばやし ひろみ
船林 広海 (厚陽中学校 3 年生)



ハイスクールの中でのサッカーの授業では、ミスをして「Nice!」と駆け寄ってくれて、ハイタッチをしてくれました。僕もチームメイトが良いプレーをしたりミスをしたときは、同じように声を掛け、ハイタッチをしました。体育の後はとても清々しい気持ちになり、スポーツに国の壁はなく、すぐに打ち解けあえることを初めて経験しました。このような機会を与えてくださった多くの方々に心から感謝し、これからの成長で恩返しをしたいと思っています。

ハイスクールで姉妹都市提携 20 周年記念式典が行われ、多くの関係者を前に市を代表してスピーチを行いました。祝賀、感謝、祈念を伝えようと、ホストマザーのアドバイスで取り入れたジェスチャーも交え、ゆっくり心を込めて話をしました。聴衆のみなさんを笑顔にすることもでき、私としても満足いく出来で、みなさんから称賛されたことは大きな自信となりました。「伝えたいことがあり、それを伝えることができた喜び」は、引率した生徒たちに対しても、思いを伝えることの手本になれたのではないかと思います。生徒たちには、これからの長い人生で、今回の貴重な経験を一生の宝にして、次へのチャレンジの糧にしてほしいと思います。



やすしげ みほ
引率者 / **安重 美穂**
(本山小学校教諭)